



# 情操高く 知は深く

## 特別な思い出 修学旅行 探究的に学ぶ 浅間の時間

11月4日(水)延期となっていた3年生の修学旅行が実施されました。また、この日に合わせて当初10月に予定されていた1,2年生の総合的な学習の時間「浅間の日」が行われました。

3年生は、長野県内の名所を、クラス別でバスを使っての修学旅行を行いました。1,3組は白馬方面、2,4組は飯田・下伊那方面、5組は安曇野・松本方面、6組は長野・戸隠方面、7組は諏訪方面でそれぞれ計画通りに過ごし、級友とのかけがえのない思い出をつくることができましたようです。

コロナ禍の状況下で、京都・奈良への宿泊を伴う従来の修学旅行を実施することはできませんでしたが、この日のために3年生の生徒たち、先生方は前向きに準備を行い、素晴らしい一日となりました。どのクラスも、帰校後の笑顔がとても印象的でした。保護者の皆様にも日程や行程の変更などご心配をおかけしましたが、ご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。

1,2年生は、学校にて、学年ごとの総合的な学習が進められました。1年生は「健康教育講演会」、2年生は「プロフェッショナル講座」において、地域の専門家の皆様にご来校いただき、学びの深まる、探求的な(手作りお弁当も含め)1日となりました。



1組…白馬岩岳にて 空中を歩行



4組…天竜川舟下り 荒ぶる?波に負けず



2組…天竜川舟下り 出発の前に



3組…白馬岩岳にて アスレチックを満喫



5組…安曇野アートヒルズミュージアムにて



6組…戸隠忍者村にて いざ修行!



7組…諏訪方面 オリジナル時計づくり

## 授業参観、学年・学級 PTA ありがとうございました



対話的に学びを深める生徒たち(2年英語)

11月11日(水)第1回授業参観及び学級・学年PTAが行われました。お子さんの学習に向かう様子はいかがだったでしょうか?コロナ禍の中、密を避け、時間を分散しての授業参観とPTAとなりましたが、保護者の皆様には健康チェック票の提出等にご協力をいただきありがとうございました。

来月には、三者懇談会が行われます。生徒一人ひとりにとってよりよい学年末となるよう懇談を深めたいと考えております。

## 人権教育旬間 実施中 ～ 高橋校長先生の講話「二人の私」をお聞きして～

11/9～11/20 まで、人権教育旬間が行われています。今週月曜日には、テレビ放送にて全校で校長先生の講話（「二人の私」以下参照）をお聞きし、「私」の気持ちや「二人の私」などについて考えました。この旬間中は、さらに各学級で人権教育の授業を行い、人権・共生について考えを深めていきます。

### 「二人の私」

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会主催 第39回全国中学生人権作文コンテスト 文部科学大臣賞作品  
埼玉県 学校法人文理佐藤学園西武学園文理中学校 3年 北澤 夏紀(きたざわ なつき)さんの作品より

私には、4歳年上の姉がいる。生まれつき足が悪く、脳性麻痺という脳の障害を持っている。私は生まれてからずっと、車いすに座っている姉しか見たことがない。言葉もたどたどしく、精神年齢も、普通の人より進み方が遅い。けれど、明るく笑顔で、誰にでも優しい姉は、周りの人からとても愛されている。

でも、私は姉が嫌いだ。障害者のくせに「私より何もかも劣っているくせに」そんな事を思い始めたのは、小学校三年生の頃だった。学校に行っても、「〇〇ちゃんは見ただけでいいからね。」といわれて勉強をまともにしていない姉。あたり前のように学校に行き、あたり前のように勉強をする私。でも母は、「お姉ちゃん、今日も学校行ってこれたの。偉いわね。」…悔しかった。毎日毎日学校に行き勉強している私は褒めないで、週に1回行くか行かないかの姉を、母はずっと褒めていた。どうして。どうして私の事は褒めてくれないの。どうしてお姉ちゃんより頑張っている私を褒めてくれないの。それをきっかけに、私の姉への嫌いな気持ちは募っていった。

ある日、家族で外食をすることになった。正直、私は外食が好きではなかった。姉が居ない時は楽しいけど、姉が居る時の周りからの視線が嫌いだ。チクチク、ズキズキと皮膚や心に突き刺さってくるような気がした。冷たく、とても差別的な視線だった。入店をして、席についておちついた頃、隣のテーブルのカップルが不機嫌な顔をして、手を上げて店員さんと呼んでいた。店員さんを待っている時、こちらをチラチラ見てはコソコソ話をして、嫌な感じ。と思っていたが、店員さんが来てそのカップルがお願いした事が衝撃的すぎて、思わず口が開いてしまった。「隣の車いすの人が急に暴れだしたら嫌なので、席を変えてもいいですか？」

信じられなかった。怒りがふつふつとわき上がり、頭に血がのぼった。幸い、カップル側の方の外側に座っていた私にしか聞こえなかったらしく、姉も母も父も楽しく会話を続けていた。けれど、私の頭は噴火寸前だった。第一姉は、暴れもしなければ騒ぎもしない。そんなお願いをいきなりされた店員さんもどうしていいか分からなかったらしく、「申し訳ありません。当店ただ今大変混んでおりまして、他のテーブルが空いていないんです。」といい、すぐに別の人のオーダーをとりに行った。すると諦めたのか、カップルはお店を出ていった。

食事をし終わり、会計をしている母と父をお店の外で待っていると、ぷーぷーと可愛い音を鳴らしながら小さな女の子が歩いてきた。私と姉の周りを三周小走りした後、姉の車いすのスポークカバーをぺたぺた触って「かわいい」と笑顔で言った。嬉しかった。そういうと女の子は、どこかへ行ってしまった。

その後、私は家に帰ってじっくりと考えてみた。何故あんな酷い事を言う人がいるのだろう。と、でも、それと同時に思った。「自分はどうかのだろうか。」誰かが障害者の方に暴言や差別的な言葉を言っているのを見たら、酷い、と思うのに、そう思っている自分も、姉に酷い態度をとっている。他の人はダメで自分はいい。そんなのは間違っている。そして、入店した時に感じたあの冷たい視線。直接向けられた姉は、どう感じたのだろう。私は思いきって、姉に聞いてみた。「お姉ちゃん、お姉ちゃんはさ、いろんな人に見られたら、どう感じる？」いつも嫌な態度をとっている私にこんな事を聞かれて、姉は少しとまどっていた。しかし、姉はにこりと微笑んで、「確かにソワソワするけど、平気だよ。なっちゃんはずっとそばにいてくれるから。」すると、自然に私の目から涙がこぼれた。何故か分からなかったけど、大声で泣きたかった。

人はそれぞれ、違いがある。肌の黒い人、左利きの人、二重の人、障害も、人それぞれの違いだと、私は思う。けれど人は、その違いを嫌う生き物だ。自分と違う物を見つけると、関わりたくないと無意識に思ってしまう。でもよく考えてみよう。自分と同じ人なんてどこにもいない。自分はこの世で一人だけなのだ。そして、その無意識な差別のせいで、少しでも傷ついている人がいるという事を分かってほしい。「自分は差別なんかしていない」と思っている人も、もう一度ふり返ってほしい。

一人一人が、少し心の広さを大きくする事で、違う誰かが笑顔になる。あの小さな女の子の笑顔が、世界中で咲くことを願って。

## 非違行為防止研修(職員研修)について

職員を対象に、佐久警察署交通課の方を講師にお迎えし、飲酒運転の根絶をねらいとした非違行為根絶に向けた研修を行いました。➡

本校では、スクールセクハラ・体罰防止のチェックシートを使い自らを振り返ったり、生徒へのわいせつな行為根絶に向けた校内ルールを確認したりするなど、研修の機会を設けてきました。今後もよりよい学校づくりのために、研修を積んでまいります。

